

世界旅打ち気分

●第86回・ニュージーランド北島の2競馬場

須田鷹雄



写真1) エラズリー競馬場のスタンド



写真2) ヨーロッパ風なエラズリーのパドック



写真3) テラパ競馬場のスタートシーン

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

今回はニュージーランドの競馬場を2つご紹介しよう。
ひとつは、まだここを紹介していなかったか、というほどの主要場。オークランドにあるエラズリー競馬場である。

この地で最初に競馬が行われたのは1857年というから江戸時代の末期。現在の主催者であるオークランドサフレッッドレーシングが買収したのが1872年とのことだ。

実は、筆者がはじめてオセアニアの競馬場に行ったのは以前ご紹介したアレクサンドラパーク（ハーネス）とのエラズリーである。2002年のことだった。当時は日曜にテレビのレギュラーがあったので長い休みは年末年始しか取れず、スタライアンズ環太平洋バスという周遊航空券を使って日本→ロサンゼルス→オークランド→日本という旅程を組んだことを記憶している。

当時の筆者はまだ本格的に旅打ちを始める前。ネット上の情報も限られていて、開催日程がころうじて分かる程度だった。このときは確かニュージーランドでは元日からG1レースがある」という話を

聞いて、エラズリー行きを決めたのだと記憶している。

現在の元日開催ではG1レースの施行がなく、あのとき見たG1が何だったのかさえ思い出せないのだが、おそらくレイルウェイステークス（2000m）だったのではないかなと思う。

また、当時は1月2日もエラズリー開催だった（現在は元日のみ）。この1月2日に障害レースを見て、ハードル競走のハードルは意外に高さが無いというか、簡単そうだなと思った記憶もある。

なにしろ四半世紀前のことなので記憶に自信がないのだが、写真で確認できるのが「当時のニュージーランドはゲートが簡素なものだった」ということ。なんと表現してよいのか、ゲートの「上の方」が無かった。日本のゲートだと馬番が書いているあたりは全く無く、地面から2メートルあるかないかのところまでしかなかった。馬にまたがっている騎手の頭部が上に飛び出している感じである。その写真もあるのだが、なにしろ当時のデジカメゆえ200キロバイトとかそういうファイルサイズで、とても印刷物に使う気にはなれなかつ

た……。JRAの発馬機が「ニュージーランド人考案の「ウッド式」というもので始まったことを御存知の方は多いだろうが、堅牢さはそのウッド式と同レベルに見え、またウッド式でさえ騎手の頭上に横方向のパイプはあったようなので、筆者が見たもののほうがより簡素だったようにも思える。

そのエラズリーを再訪したのが2024年の1月。現地のセリに行ったついでだった。20年以上ぶりの再訪、しかも今度はセリ会社からの招待状を持つての参戦だったのだが……。

内馬場の駐車場に車を停めて入ろうとすると、「今日は満員札止めだからもう入れない」と止められた。招待状を見せても、そもそも係員はバイトかなにかなので、セリ会社の存在からして理解していない。すったもんだに揉めた末に「店長を呼べ！」「みたいな話になり、なんとか入場はできた。まあ、海外ではわりと起こりうる事態である。比較するとJRAの職員さんとかはだいぶ親切だと思う。

競馬場のスタンドそのものは、20数年前と変わっていないかった。中は改装されていたが、ものすごく

繼ぐと競馬場から徒歩5分くらいのバス停に到達するようである。自分で試していないのに紹介するのは恐縮だが、運転ができない方でもアプローチできる。

このテラパ競馬場はオーストラリアでいうプロヴィンシャル相当なのではないかと思うのだが、施設や雰囲気は「カントリーのちゃんとした競馬場」くらいの感じ。競馬場そのものにキャラクターはないが、かつてはけっこう観客が入ったのだろうと思わせるサイズのスタンドがある。

そのスタンドから見下ろせる位置コースとの間にパドック（マウンティングヤード）があり、同じところに座ったままでパドックもレースも見られる。まあ実際には馬券を買うためにいったん移動しなくてはならないが……。上位入線馬が帰ってきて入る枠場もスタンドのすぐ下なので、スタンドのメンバーエリア寄りに陣取っていれば、いろいろなシーンを見ることができだろう。

スタンドの横幅はけっこう長く、コースとの間は芝生ゾーンになっていて、そこには木のテーブルと椅子がいくつも置かれている。日本なら

開門ダッシュでもしないとキープできなさそうな絶好の居場所だが、夏場は日差しが強いこともあってあまり使われていない。これはもはや「オセアニア競馬あるある」とも言えるものだろう。

スタンドそのものはかなり古く、使われなくなった部屋・馬券売り場の跡などもけっこうある。寂しい光景ではあるが、競馬場マニアとしては興味をそえられるところでもある。

スタンドの裏手にはヨーロッパでいうところのプレレードリングのようなところもある。そこを回る馬は基本的ににおらず通り抜けていくだけなのだが、プレードリング側が低く周囲がひな壇状になっており、レースに向かう馬を見ていると気分が良い。実際、筆者が行った日にそこで昼寝をしている人がいた。

このテラパ競馬場は立地ゆえに参戦する騎手のメンバーも高い。また、競馬場があるハミルトンという街はけっこう大きな街だし、車で25分ほどのケンブリッジにはハーネスの競馬場もある。日程が合うならハミルトン泊で行ってみるのもよいだろう。